無　　題

佐　藤　良　輔（地球物理学教室）

理学部廣報の編集委員長から教室主任を通じて，退官に際して何かエッセイを書くようにいわれました。しかし今更カキオキをするようなことは何もないし，かといって先輩の竹内均先生のように一行ですませるという度胸もないので，ナヤンでいるうちに締切日が迫ってきてしまいました。そこで思い付くままに（くるしまぎれに）一つだけ書いて見ることにしました。

ごく最近の新聞のコラム記事に，作家の高田宏氏が書かれた「二分間スピーチ」というのがありました。故人となられた詩人の草野心平氏や山本太郎氏が主宰されていた会合では，外部の人を招いて二分間だけのスピーチをやって貰っていたようなのですが，その会合では，二分間たつとカネが鳴らされて，それまでに話が終わっていないと罰として枡酒を呑まされ，それからは一分超過するごとに，枡酒を一杯ずつ呑まなくてはならなかった，という内容のものでした。恐らく二分間もあれば話の要点はまとめられる筈だという考え(+ジョーク）に基づいているものと推察します。

そこで正直に，かつ勇気をだして書くのですが，私がこの記事を読んですぐ思ったのは，教授会の「人事に関する件」のことでありました。昔と違って学問分野が極度に分枝化した最近の状態では，“１，３，５の論文は……”という（詳しい）説明だけで，専門分野の全く異なる研究業績のことを判断せよといわれても（いわれてはいないのかも知れませんが）ドダイ無理な話だ，と少なくとも最初の頃は（！）思っていましたので，「投票」するのがためらわれたことも多々あったというのが正直な所です。そのうちに，候補者の業績を最も良く理解されている方は推薦された方なのだろ

うし選考委員会の方々なのだろうから，こんな場合は信用するしかないと思うようになりました。勿論選考委員会の方々のほかにも候補者の業績や人間性を良く知っている方がおられるでしょうが，そういう方には「詳しい説明」はそれ程必要としないでしょうし，それに投票までに一ケ月あるのですから，「短い説明」は決して障害にはならないと思うのです。ところが，恐らく多くの方がそう思っておられる筈なのに（と思いたい），説明される方は，「短い」と候補者に申し訳ないと思われるせいなのでしょうか，それとも，カルクナルとでも思われるせいなのでしょうか，なかなか短くならない。そこで，内規上（？）どうしても説明が必要であるのなら，いっそのこと時間をきめておいてチーンとやって（まさか枡酒まで用意することはないでしょうが），あとは質問を受けるという風にはいかないものでしょうか。このことを私の周りの何人かの方に話した所，皆さん賛成でした（もっとも心の中ではそんなことなどできっこないと思っておられたのかも知れませんが）。

提案というのは，それを全く無視されると提案者は何ともバツの悪い気持ちになるものですが，私はお陰様で三月一杯で「卒業」しますので，とにかくこの際，人の言わない（言えない？）ことを言った上で，それが無視されても一向に平気でありますことを申し添えておきます。

最後に筆の勢いでもう一つだけ書いておきます。確か物理の小柴先生だったと思いますが，退官の際の最後の教授会の時，“教授会をせめて二時間で終了するようにすれば，若い人達がもっと出席するようになるだろう”という主旨のことを話されました。全く同感です。私の今までの経験では，教授会は昔より（紛争の頃は別として）随分長くなっているような気がします。○○委員会というのが多くなりすぎたからでしょうか，それとも，二分間ですむ話を十分間（枡酒九杯分！）話さないと気がすまないという論客が多くなったからなのでしょうか。

それにしても長い間お世話になりました。理学院として益々の発展を心からお祈り申し上げます。